

授業概要

自己レベルの心理を理解していくことは、対人レベルそして集団レベルでの行動を考えていく上で重要な知識となる。本講義では、社会心理学における自己や他者に関わる様々な理論や知見を紹介する。具体的には、自分自身をどのように捉えているのか、他者との関係を形成しようとする気持ちが社会的行動とどう関わってくるのか、なぜ、他者を傷つけるのか、そして他者を助けるのか等について講義する。

授業計画

| | |
|--------|--------------------------------|
| 第 1 回 | オリエンテーション（社会心理学とは何か） |
| 第 2 回 | 自己評価—自己をどう捉えるか— |
| 第 3 回 | 対人認知—他者をどう捉えるか— |
| 第 4 回 | 対人魅力—何が人を惹きつけるのか— |
| 第 5 回 | 感情表出—健康を左右するのは何か— |
| 第 6 回 | 自伝的記憶—記憶は真実なのか— |
| 第 7 回 | 自己開示・社会的共有—人はなぜ話すのか— |
| 第 8 回 | 自己呈示—人はどう振る舞うのか— |
| 第 9 回 | 集団の影響—集団の中で人はどう変わるか— |
| 第 10 回 | 攻撃行動—何が人を駆り立てるのか— |
| 第 11 回 | 情報化社会—メディアは人をどう変えるか— |
| 第 12 回 | 文化と個人の心理—文化は人を左右するか— |
| 第 13 回 | 身体と認知—人は身体からどう影響を受けるか— |
| 第 14 回 | ジェンダー—人は性をどのように捉えるか— |
| 第 15 回 | 現実社会への応用—社会心理学はどのように活用されているのか— |
| 第 16 回 | 筆記試験の実施 |

到達目標

- ・個人・集団レベルおよび文化レベルにおける人の考え方・感じ方・行動の仕方のメカニズムを理解できる。
- ・社会心理学の視点を応用して、現代社会における様々な問題を解決するための糸口を指摘できる。
- ・社会生活を円滑に進めていくために何が重要になってくるのかについて、授業で学んだ知識を参考にしながら自身で答えを見つけることができる。

履修上の注意

質問は、講義内でも応じるので、わからないことはそのままにしないようにすること。主に講義形式で行うが、グループワークなども行うので積極的に参加すること。

予習・復習

- ・予習として講義内容に含まれるキーワードについて調べること。
- ・復習として講義で用いた資料を読み返すこと。

評価方法

試験の結果 70%、毎回の授業課題 30%を総合した上で評価を行う。

テキスト

特に指定しません。
講義は配布資料に基づいて進めます。